

第3期別海町農業・農村振興計画の概要

農業生産をめぐる国内外の情勢

(1) 国際情勢

- ・ 食料安全保障上のリスクの高まり
- ・ 人口増加に伴う食料需要の増加
- ・ 経済のグローバル化

(2) 国内情勢

- ・ 人口減少・高齢化に伴う担い手不足
- ・ 食市場の縮小と構造変化

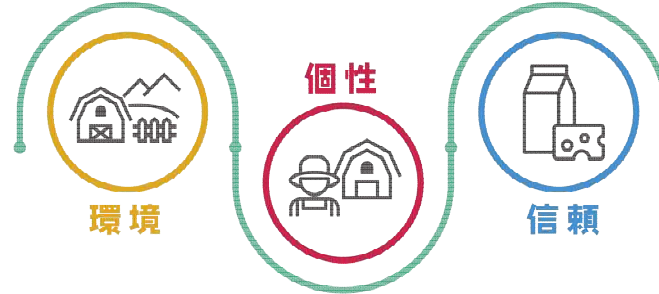
別海町の農業・農村の現状と課題

- ・ **経営耕地面積(牧草) 60,128ha**
担い手への農地集約の促進により横ばいで推移。植生改善やサイレージ用とうもろこしなどの栄養価の高い飼料生産などにより、土地基盤をフル活用した良質で低コストな自給飼料の生産が重要。
- ・ **乳牛飼養戸数 586戸**
高齢化や後継者問題などにより、農家戸数は減少。新規就農者は年平均3戸程度で推移。町内の乳牛飼養戸数が平成10年度の1,030戸から令和6年には586戸に減少。
- ・ **乳牛飼養頭数 99,121頭**
一戸当たりの飼養頭数の増加に伴う経営規模の拡大が進展し、生産活動を通じた環境への負荷などが懸念。
- ・ **生乳生産量 489,841 t**
生乳の需給緩和により、生乳の生産抑制が行われ、令和4年以降は減少傾向で推移。その後、生産抑制が見直され、令和6年には再び増加に転じたものの、以前の水準には回復していない。
- ・ **農業産出額(生乳) 593億円**
乳価の段階的な値上げにより増加傾向で推移。生産資材価格の高止まりや生乳需給の緩和が長期化していることなどから、生乳や乳製品の品質向上、高付加価値化や消費拡大の取組の推進、更なるコストの低減等が重要。

おおむね10年後の「将来像」

人と自然が共創する豊かな農業のまち別海

「将来像」の実現に向けた取組の3つの柱



環境

～ 環境との調和と多面的機能の発揮 ～

農業：環境と調和のとれた持続可能な農業の推進
農村：良好な水環境の保全と、美しい農村景観・農場環境の創造

個性

～ 多様な選択肢と豊かな暮らし ～

農業：多様な担い手が支える安定した農業経営の確立
農村：活力に満ち、心豊かに安心して住み続けられる地域づくり

信頼

～ 確かな評価と高い信頼 ～

農業：消費者ニーズに応える安全・安心・良質な食料の安定供給
農村：地域資源と創意工夫を活かした幅広い連携や地域交流活動の推進

- 持続可能な農業・農村の確立
- 国民一人一人の食料安全保障の実現に寄与

3つの柱ごとの具体的な取組内容とKPI

環境

地域バイオマス活用施設整備数 30施設
草地更新率 6%/年

- ・ 土-草-牛の自然循環機能を基本とする持続的な農業の推進
- ・ 生産活動に由来する家畜排せつ物等の適正な処理・利用等による環境負荷低減
- ・ 適切な衛生管理と家畜の生理に適応した生産の推進
- ・ 次代へ引き継げる農村地域の豊かな水環境の保全
- ・ 地域の誇りとなる美しい農村景観・農場環境づくりの推進

個性

新規就農者数 20戸

- ・ 新規就農者等の育成・確保
- ・ 多様な経営体の育成
- ・ 別海町の特色ある資源を活かした農村づくりの促進
- ・ 安全で快適なゆとりある生活環境の整備

信頼

べっかいブランド商品開発数 5個

- ・ 食の安全・安心の確保に向けた取組の推進
- ・ 消費者のニーズや期待に応える農業生産の推進
- ・ 別海町農産物の付加価値を高める加工や販売の推進
- ・ 地域ブランドの確立
- ・ 魅力ある食づくりと「食」を通じた消費者と生産者の関係強化
- ・ 都市・農村交流活動の促進

計画の推進

推進体制、関係機関等との連携協力、進行管理

計画期間

令和8年度(2026年度)～令和12年度(2030年度)